

類型別営農モデルの作成を通して

地域農業計画案の策定を支援するプログラム

農業労働力が急速に減少する中での地域農業振興を進めるには、地域農業の将来像を合理的に示し、その実現に向けた取り組みが求められています。しかし、営農現場の指導者が合理的な地域農業計画モデル（将来像）を策定することは容易ではありません。そこで、当センターでは、「営農モデルの策定を通して地域農業の構造変化予測を支援するプログラム」（技術の窓 No. 1694）を拡充し、地域農業計画案の策定を支援するプログラムを開発しました。

☆ 技術の概要

1. 本プログラムでは、それぞれの経営類型をプロセスとし、整数計画法によって地域全体の土地条件、労働力条件の下での最適な地域農業計画案を導き出します。
2. 操作手順は、①地域全体の耕地面積、自給的農家等の概況、育成したい類型別営農モデル数などを設定し、②類型別営農モデルを営農計画策定支援システム Z-BFM を利用して作成した上で、③分析実行をクリックすることで、分析結果が表示されます（図）。
3. 分析結果は、設定内容を反映した地域農業計画用の単体表に基づいて、地域農業の合理的な計画案を計算し、地域内における類型別営農モデルの戸数とともに、地域全体の耕作面積、作物別作付面積、不作付面積などの結果を要約して表示します。
4. 営農モデル戸数の制限や、不作付地の許容割合などの設定で、育成すべき担い手経営数や耕作放棄地の回避目標などに応じた分析ができます。

**【地域農業計画の基礎設定】**
③ 分析実行

**【地域の耕地の概況】**
①

	田	畑	樹園地	ハウス等	不作付地の許容割合
全体の耕地面積 (ha)	400.00	0.00	0.00	0.00	5.0%

**【自給的農家等の概況】**

	農家数 (戸)	自作面積 (ha)				出役	
		田	畑	樹園地	ハウス等	日数 (日/旬)	時間 (時間/日)
自給的農家	100	0.10	0.00	0.00	0.00	10.0	10.0
土地持ち非農家	50					10.0	10.0

**【担い手経営の概況】**
②

営農モデルの最大数:  モデル
設定

選択	営農モデル名	下限	上限	
<input checked="" type="checkbox"/>	水田作経営モデル	5 戸		営農モデル作成
<input checked="" type="checkbox"/>	野菜作経営モデル	2 戸		営農モデル作成
<input type="checkbox"/>		1 戸		営農モデル作成

Z-BFMの呼出

➔

Z-BFM (Excel アドインツール)

単体表の取得

図 地域農業計画の設定画面

注: 点線で囲った箇所は、Z-BFM との連携をイメージしたものです。

☆ 活用面での留意点

1. 本プログラムは、地域農業の将来像を検討する指導者等が担い手の育成や地域全体の営農計画案を考える時に活用できます。ただし、分析には、育成すべき担い手経営の利益係数や労働係数に関する情報を準備する必要があります。
2. 本プログラムは、中央農業総合研究センターの「農業意思決定支援システム」のウェブページ (<http://keieikenkyu.narcb.affrc.go.jp/>) からダウンロードして利用できます。
3. 詳細は、中央農業総合研究センター農業経営研究領域 (TEL: 029-838-8876、E メール: fmnarc@affrc.go.jp) にお問い合わせ下さい。

(中央農業総合研究センター 主任研究員 松本 浩一)